



大阪地方本部 青年女性委員会 第15回 ユースプロジェクト



全員が事故後入社の青女組合員にとって、
事故と向き合うための貴重なディスカッションとなった

冒頭、主催者を代表して大阪地方本部森本青年女性委員長より、「事故から19年が経過したが、当社で働く私たちは決して事故を風化させてはならず、更には、これから入社してくる仲間にも悲しさや反省を伝えていかなければならない。青年女性組合員は全員が事故後入社であり、今年か



主催者を代表し挨拶をする
大阪地方本部森本青年女性委員長

ら事故当時まだ生まれていなかった人も入社してくるという環境下で、今後も事故を伝えていく役割の中心になるのは私たちである。事故を、社員として経験

事故の悲惨さと反省を心に刻み 日々の安全をいかに構築していくかを議論

大阪地方本部青年女性委員会は4月20日(土)、天王寺ミオイベントホールに於いて、第15回ユースプロジェクトを開催した。全員が事故後入社である青年女性組合員に対し、福知山線列車事故に関する特別講話として、今回は京橋車掌区(現あべの車掌区副区長)の重村助役(当時は京橋電車区運転士)より、事故当時の経験や事故の反省、事故後の取り組みについて等の貴重なお話をいただき、その後、講話の内容も踏まえ、参加者全員で意見交換を行った。

した先輩方も少しずつ退職されていく中で、しっかりと生の声を聞き、日々の仕事に活かすと共に、語り継いでいかなければならない」との挨拶が行われた。

次に、大阪地方本部執行部を代表して白井副執行委員長から、「安全確立」「2024春闘」「組織のそれぞれの項目について挨拶があった。

続いて、福知山線事故に関する特別講話が行われた。

事故と向き合い、安全意識向上の糧に

講話では、当時、京橋電車区に勤務されていた重村助役から、「事故発生時は塚口の電留線におり、発車を待っていた。何かの事故で列車がしばらく動かないため、駅の詰所で他の乗務員と指示を待っていると、慌てた様子で外から戻ってきた乗務員から新聞の号外を見せられ、その時初めて、甚大な事故が発生していた事を知り、事の重

大さに愕然となった。それ以降、詰所では誰一人、口を開かなくなってしまう」と事故の状況を聞いた。

事の得意先がご遺族になってしまった」など、事故以降の社会からの厳しい視線や周囲の状況の変化を目の当たりにした経験、そして、「当該列車を最後に目撃していたため、警察から事情聴取を受けた」事、「事故の数日前に買い物に出掛けたときに当該運転士と偶然会って話をした」事などの貴重な体験もお話いただいた。

また、事故を経験していない私たちに、「みなさんが仕事をすることで、決して『加害者』という意識を持つ必要はなく、基本動作や決められたルールを守りながら、前向きに仕事にあたっている」という期待の言葉もあった。

講話後には、参加者同士で「事故を起こした会社に入ることをどう思ったか、また入社後、どのように心境が変化したか」「事故を忘れないための個人、各職場の取り組みや、先輩社員等から聞いた内容」「普段の業務で、安全のためにどのような意識をしているか」「福知山線列車事故を風化させないために、また後輩組合員に語り継ぐためにどんなことが必要か」についてディスカッションを行った。

今回も、青年女性組合員が先輩社員から経験を聞き、できることが何かを考え、福知山線列車事故の後輩社員へ語り継ぐ意識を高める大変有意義な場となった。



参加者からディスカッションを通して
様々な意見が出された



特別講話をする
京橋車掌区(現あべの車掌区副区長)重村助役



重村助役の話に聞き入る参加者



活発な議論の結果を発表する参加者たち